# マッピング法・マンダラート法の活用

## 説得力のある意見文を書くために

説得力のある意見文にするためには、明確な要旨とそれを支える具体的な材料が不可欠となります。取材・構成の段階では、題材に関わる自分の知識や体験を素材として、できるだけ多くのことを思い起こして書き出してみることが必要となります。頭の中で考えるだけでは不十分です。全部を書き出し、眺め、操作することにより、それぞれの材料間の関連や意味が明瞭に見えてくるものです。また、役に立たない材料も整理されていきます。

これらの一連の活動を通して､次第に要旨が具体的な形となって立ち現れてくることもあります。あとは、読み手にわかりやすいように材料を論理的に組み合わせる工夫をすればよいわけです。この取材から構成までの思考を促進させるために、今まで様々な構想表の工夫がなされてきました。ここでは、以下のものを紹介します。

## マッピング法とマンダラート法

主に産業界で活用され、教育界にも広まってきたマッピング法とマンダラート法の２つの技法を取り入れた実践を紹介します。

〈マッピング法〉

> 脳の神経回路に似たパターンを用いることで脳を解放し、思いついた考え、ひらめき、情報、経験などをマップ（地図）を描くように書きとめ、関連づけをし、構成していくことで新しいアイデアを生み出す技法。

〈マンダラート法〉

> 曼荼羅の心を用いて、９つのマスにテーマに対する情報、意見、アイデアを書き表し、全体的・体系的に発想しようとする技法。

この２つの技法を支援の手だてとすることで、より広い視野から多面的に材料を集めて整理し、論理的に文章を構成する力をつけることができると考えます。

## 実践例「卒業論文を書こう」指導計画

（１）指導計画　　１２時間

① オリエンテーション

② 学習の見通し

○ 意見文（論文）を書く手順

③ テーマの決定と要旨の明確化

○ マッピング法で題材と自分の知識や体験を簡単に書き出して見通しを立て、題材を選択する。

④ 取材

○ マッピング法あるいはマンダラート法で広い範囲から材料を集め、要旨に沿って材料を取捨選択する。

⑤ 構成

○ ２つの技法で集めた材料の関連を考えて、論理的な文章構成を工夫する。

⑥～⑩　叙述（家庭学習を含む）

⑪　推敲

⑫　自己評価